

どうして雨が嫌だったんだろう



プロセスが見えた



人ってこんなにやさしくなれるんだ



人ってどこでも同じ。食べて、寝て、働いて、遊んで。



ぼくらは確かに生きていた



しあわせって何だろう







気づき

- 自分を生かしてくれているもの、支えてくれているものに改めて気づき感謝を新たにしました。
- ごみの問題は知っていても、ペットボトルを買ってしまうし、ときにはプラスチックのお弁当まで買ってしまう。問題と自分の行動をつながなくては。
- 「生きる」ってことはすごく大変。
- 「お金で買っているんだからいいでしょ」という感覚はすごく危険だし、あまりに無知だと思う。
- 物がなくても知恵を使えばいくらでもそれと同等の物が作れること、また、そういった知恵の大切さ・・・モノにあふれている私達は考えることが出来なくなっているのかもしれないと思った。
- とにかく、自分の「生」の定義が変わりました。
- みんなで協力すればこわくない。

遠征体験(冒険・科学・奉仕)20年後

・ 現在の仕事や生き方、考え方に関係がある

96%

- 先入観や偏見を持たずに異文化に接することができる、多様性を受け入れられる
- どんどころでも生きていける、自分が耐えられる困難の限度を広げている
- 自然、社会、経済、文化の関わりへの意識
- 生きる上での哲学
- 自己の確立

体験はなんでも教育的
というわけではない

(Dewey, 1973; Hopkins & Putnam, 1993)





見えてきたこと

- 自然との関係
 - 少数民族らや大地とつながる人々の深い智恵と哲学の中に持続可能な社会へのヒント
- グローバリゼーションの功罪
 - 土地からのかい離、身体性の欠如
 - 格差、飢餓、生物多様性劣化、生物の速度を越えた速さ、希薄な生の感覚
- 地域・場の視点
 - 身体性を持つ多様な関わり
 - 自分は何者か

自然体験の大切さ
場に根ざすことの大切さ

